

技術認定制度とは

（技術認定制度とは？）

Q 1 平成17年度から技術認定制度が施行されていますが、この技術認定制度とはどのような制度なのですか？

A 1 個人の技術レベルを多段階で絶対評価します。

J D S F では会員拡大活動を推進していますが、2010 年末に会員 6 万人、2012 年末に 10 万人を達成するため、生涯スポーツの視点からみた会員拡大推進策、会員満足向上策の一つとして技術認定会の開催を推奨しています。

（主な対象者）

技術認定制度が対象とする人は、主として競技活動をしていない会員、競技活動を事情により休止している会員、カップルを組む前の個人、これからダンススポーツを習得したいと思っている方々です。また、最近では競技活動を継続しながら自分自身の技術向上のために受験する会員も増えてきました。

（制度の内容）

技術認定制度は、個人の技術レベルを多段階による計画的な認定システムで資格認定するもので、上位級になるに従って音楽性を重視します。審査は、会員個人の技術に関する絶対評価ですので、会員の技術向上意欲を維持、促進するための仕組みとして期待されます。

（実施主体）

技術認定制度は、J D S F 又は各都道府県連盟が実施、運用します。

（技術認定制度創設の背景、意図は？）

Q 2 技術認定制度を創設した背景、意図はどのようなことなのですか？

A 2 生涯スポーツとして長く親しんでもらうための仕組みとして創設

近年、私たちを取り巻く環境は大きく変わってきています。とくに国民生活の面では産業社会型から成熟社会型ライフスタイルへとシフトし、少子高齢化の進展とともに健康志向、自己実現の追求、地域コミュニティの再評価等が盛んに叫ばれてきています。

このような状況の中、J D S F ではダンススポーツをこれからの生涯スポーツとして広く国民に親しんでもらうため、技術向上意欲を維持、促進するための仕組みの一つとして平成17年度に技術認定制度をスタートさせました。

技術認定制度のメリットは？）

Q 3 技術認定制度が施行されると、会員にとってどのようなメリットがあるのですか？

A 3 モチベーションが向上します。

これまでは、競技活動中心の会員には活動の場が与えられている一方、競技活動をしていない会員の活動の場をどのように提供していくのかということが課題とされてきました。

（モチベーションの向上）

技術認定制度は、多様なダンススポーツライフを楽しむ多くの会員の中でも主として生涯スポーツとして取り組んでいる方々に活用していただけるように設計しています。初心者の方々にダンススポーツを普及するための手段として、また、経験者には目的を持ったスキルアップの手法として活用していただけることから、個人が自己実現のための目標を設定でき、モチベーションが向上すると期待されます。

（資格制度としての権威付け）

技術認定制度は、資格制度として権威付け、競技活動を行う場合の資格の付与や公認指導員試験の一部免除など会員の多様なニーズに応えられるような拡張性のある制度として運用しています。

（具体的なメリットは？）

Q 4 具体的にはどのようなメリットがあるのですか？

A 4 選手登録6級の付与、新規公認指導員選考試験や昇級試験の実技試験免除等のメリットがあります。

技術認定制度は拡張性の高い制度として運用されています。現時点で想定している制度的なメリットは以下の通りです。

（競技規程との関係）

グレード6又はグレード5を認定された方がJDSF選手登録をする場合には該当するセクションの6級が付与されます。

（公認指導員制度との関係）

グレードコースの最上位級であるグレード1スタンダード及びグレード1ラテン双方の認定をされた方が新規公認指導員選考試験を受験する場合には、当該選考試験のうち実技試験が免除されます。また、ハイグレードコースのハイグレード1のワルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャの4種目を認定された方がB級指導員昇級試験を受験する場合には、実技試験が免除されるほか、新規公認指導員選考試験に合格した場合にはB級普及指導員として認定されます。